

研究指定校名 : 鳥取市立宮ノ下小学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立宮ノ下小学校
学級数	15学級(うち特別支援学級:3学級)
児童生徒数	全児童数295人(平31年2月12日現在)
URL	http://www.torikyo.ed.jp/miyano-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子の育成
～対話と価値語による自尊感情の向上～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

<研究の経緯・背景>

○本校には以下のような課題がある。

- ・全国学力・学習状況調査や県学力診断テストの結果から学力低位の児童の割合が高く、学力の2極化傾向がある。
- ・児童の学校生活の様子や学校評価(児童の意識調査)から規範意識や自己肯定感の低い児童の割合が高いと考えられる。特に学力が十分に定着していない児童は自己肯定感が低く、規範意識も低い傾向が見られる。
- ・いじめ事案も多く、障がいや異文化に対する理解不足による不適切な発言で友達同士のトラブルが生じたこともあった。

○これらの課題解消に向け、以下の取組を行ってきた。

- ・算数を中心に基礎学力の定着・向上への取組を行い、「わかった」「できた」を実感する授業づくりに取り組むことで学力の底上げを図り、2極化解消に向けて取り組んだ。(人権としての教育)
- ・ペアやグループでの対話を重視し共に学び合う中で友達とのつながり、学習集団(学級)への所属感を高めるように取り組んだ。(人権が尊重される教育)
- ・生徒指導や教育相談をていねいに行い、生じた問題について合理的理解を促し、再発防止を図った。

○研究を進める中で、さらに次の課題2点についても共通理解した。

- ・特別支援を要する児童への指導法の転換・工夫・改善の必要性。
- ・友達間で問題が生じた場合の対話による相互理解と友達関係の育成。

<研究の方向性>

○これまでの研究の方向性を踏まえ、以下の取組を考えた。

- ・教育実践研究家「菊池省三」氏の示範授業と授業研究による「対話と価値語による自尊感情の向上」に力を入れた学級経営・学習づくりの推進。(人権が尊重される教育)
- ・児童一人一人のアセスメントに基づく本人や学級の特性の傾向に配慮した授業づくり。(人権としての教育)
- ・ICT活用で視聴覚支援を行い、「わかった」「できた」を実感できる課題解決。(人権としての教育)
- ・中学校区で「ルールやマナーを大切にし、つながり合う子ども」の育成を重点に掲げた児童生徒の仲間づくりの推進と自治力の育成。(人権が尊重される教育)
- ・教育課程に準じた系統的な人権教育の推進。(人権についての教育)

<テーマの設定>

○本校では学校教育目標「子どもたちの未来をきり拓く力を育成する学校づくり」のもと、めざす子ども像として以下の3つを掲げている。

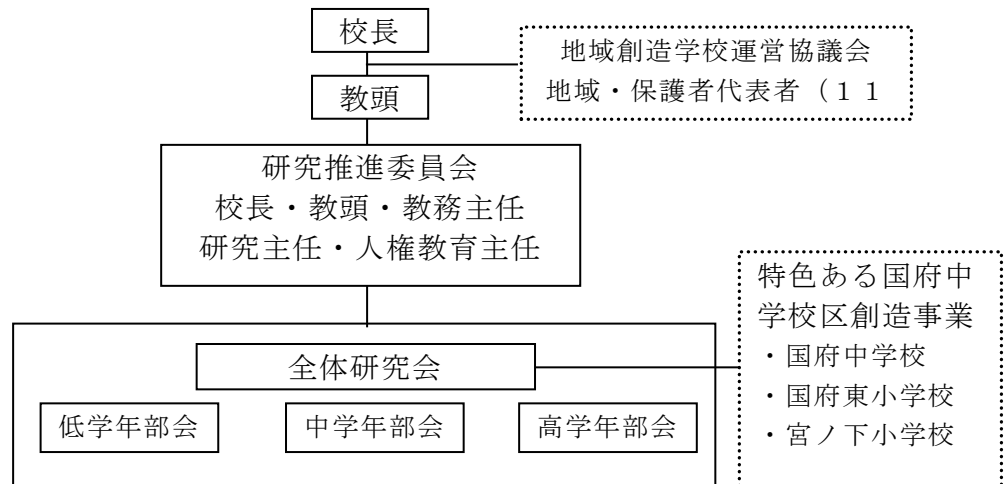
- ・徳「規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子」
- ・知「主体的・対話的に学び合い、自分の考えを深めていける子」

- ・ 体「めあてをもち、自ら健康・体力づくりに取り組める子」
- 学校教育の基盤は学級経営（仲間づくり）である。主体的・対話的な学び合いも仲間づくりができていなければ成立しがたい。
- 特に学級経営していく上で、教師と児童、児童と児童がつながることは大変重要である。教師と児童、児童と児童がつながっているという安心感を生み出すことで、自己肯定感を高め、他者を尊重する態度や規範意識を高揚させるものとする。
- そこで、本研究では「規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子の育成」をテーマに設定し、特に仲間づくりに焦点をあてながら落ち着いた学習集団を築き、学力、規範意識、自己肯定感が高められるように取り組んでいきたい。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力機関〉 ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

- 鳥取市4項目アンケートを含めて児童の学校評価での肯定的な回答が低い。
 - ・ 「学校が楽しい」 5年68%（市89.1%）、6年61.8%（市91.5%）
 - ・ 「みんなで何かをするのは楽しい」 5年80%（市93.9%）、6年74.5%（市94.7%）
 - ・ 「授業にすすんで取り組んでいる」 5年80%（市89.2%）、6年89.2%（市90.2%）
 - ・ 「授業がよくわかる」 5年94%（市90.4%）、6年85.2%（市91.6%）

- いじめ事案が複数あり、現在も指導支援を継続している。また、障がいや異文化に対する理解不足による不適切な発言で友達同士のトラブルもあり指導を行ってきた。
- 呼び捨てや乱暴な言葉づかいをする児童が多く、相手を尊重する言葉づかいや態度の育成が必要である。
- これらの背景には、自己肯定感や自己有用感の低さと友達間・教師間の結びつきの脆弱さがあると考えている。

(調査研究の内容)

- 菊池省三氏を招聘した研修を行い、価値語などによる児童の自己肯定感を高める取組を行う。
- 特別活動を活性化し、意図的・計画的に対話によるつながりの醸成などを図る。
- 人権教育に関する年間計画等の改訂を行う。
- いじめ防止基本方針に沿った取組を行う。

(実施方法・検証・評価)

《実施方法》

1. 児童の自己肯定感を高める取組

①菊池省三氏を招聘した研修会の実施－5月27日(日)

- ・学習参観日を兼ねた示範授業の公開、PTA研修会(講演会)、職員研修の開催。

○示範授業(道徳)

2年生「うれしくなる言葉」、4年生「喧嘩」、5年生「どちらがすごい」

○PTA研修会(講演会)－演題「対話でつながる家庭へ」

○職員研修…講義「『主体的・対話的で深い学び』への授業改善」



②価値語の掲示

教室掲示板、黒板を活用し、学習規律の指導、言動の価値付けと賞賛を行った。

③各学級でのきらりシャワー

各学級で、帰りの会で全員、または、数人が1人に対して褒め言葉を伝え、互いを尊重し認め

合う心や態度の育成、児童同士のつながりづくりを図った。

④きらりあおぎり全校表彰

毎月、各担任が数人を選び、全校朝会で表彰する。全校で互いを認め合った。



職員研修



価値語掲示



きらりシャワー



きらりあおぎり全校

2. 特別活動を活性化し、意図的・計画的に対話によるつながりの醸成

①特別活動の活性化(話し合い活動の重視と自治的活動)

○代表委員会…毎月1回開催。運営委員会の提案→各学級での話し合い→代表委員会→全校朝会

→全校・各学級での実践の中に児童相互の対話場面を保障した。

○委員会の活性化…各委員会がイベントを企画し実施した。

・運営委員会の取組…「あいさつを盛り上げよう」で、挨拶運動、挨拶標語、バッジのコンテスト

トに取り組んだ。

- 縦割り班活動（わくわく班活動）
 - ・班旗作り、わくわく班遊び、さつまいも苗植えや収穫、運動会の応援合戦、百人一首、なわとび
 - 集会の実施。

○学級の係活動を中心に、「学級遊びの日」の実施。

②日常生活で対話を重視…生徒指導と教育相談（カウンセリング）の充実

生徒指導的なトラブル対応は、「迅速な対応」「対話による問題解決」「気持ちや言い分を言

葉に変換」を重視し、問題解決や指導にあたった。学級・学年全体での対応というケースもあるが、

教師サイドの主張や指導を強めず、児童に問題点や解決方法等を投げかけ、教師と児童、児童相

互の対話の中で納得解を得ながら解決を図った。

3. 人権教育に関する年間計画等の改訂

①校区内にある盲学校や聾学校などとの交流

○3年生…テーマ「地域・伝統・福祉」

- ・「盲導犬・盲学校との交流」…1月17日(木)に交流会を開催。

○4年生…テーマ「地域・福祉」

- ・「手話マスターになろう」…毎週月曜日に手話学習で交流している田中作治さんから手話を学び、その後、聾学校との交流会を行った。（10月30日(火)、11月5日(月)）

②確かな人権意識の育成

○スマイル参観日…公開学習(5校時 道徳)、講演会、懇談会(6月26日(火))

○人権週間(12月4日～10日)の取組…鳥取市 人権標語・ポスターの募集へ

応募

入賞(全校朝会で表彰・標語掲示)

- ・2年男児「きょうもまた みんなのきらり みつけたよ」
- ・5年男児「ちがう意見 無視せずちゃんと 聞いてみよう」

4. いじめ防止基本方針に沿った取組

①いじめの早期発見のためのアンケートの実施

○生活アンケート…5・9・12月、心のアンケート…毎月実施。

②教育相談（カウンセリング）の実施

○児童理解週間の実施…6月18日(月)～6月22日(金)

- ・日々の児童観察も含め、気になる児童については、全職員でその様子や事後の対応について共通理解する場を週1回は設け、情報を共有し指導に生かすよう努めた。

○SC(スクール・カウンセラー)によるカウンセリングの実施

- ・教育相談コーディネーターを中心に学校課題対策委員会をもとに全教職員で対象児童を抽出し、SCとの情報交換を通して計画的にカウンセリングを行った。対話を通して、周囲や自分への気づき
が生まれ、問題解決につなげるようにした。

《検証・評価》

◎検証について

1. 鳥取市共通項目アンケートを含む学校評価アンケート(年2回 7月・12月)

- ・「学校が楽しい」

5年68%(市89.1%) →7月○84.4%(市89%)、12月○76.2%(88.8%)

6年 61.8%(市 91.5%)→7月○89.8%(市 91.2%)、12月○94 % (91.1%)

・「みんなで何かをするのは楽しい」

5年 80 % (市 93.9%)→7月○92.2%(市 93.7%)、12月○93.7% (93.5%)

6年 74.5%(市 94.7%)→7月○89.8%(市 93.5%)、12月○96 % (93.4%)

・「授業にすすんで取り組んでいる」

5年 80 % (市 89.2%)→7月○95.3%(市 89.5%)、12月○88.9% (89.4%)

6年 89.2%(市 90.2%)→7月○91.8%(市 89.5%)、12月○94 % (91.0%)

・「授業がよくわかる」

5年 94 % (市 90.4%)→7月▼92.2%(市 85.5%)、12月▼82.5% (85.4%)

6年 85.2%(市 91.6%)→7月○95.9%(市 89.4%)、12月○92 % (89.2%)

【○=前年度より高い、▼=前年度より低い、____=市より低い】

2. 地域創造学校運営協議会委員による授業評価（第3回運営協議会議事録（10月30日より）

○以前の読み聞かせでは、騒がしい感があったが、今は落ち着いている。成長をしていると

感じた。

○落ち着いてきている。授業中に離席し、廊下ですれ違う子なし。心配もなくなってきた。授業も成立している。

「尋ねる→答える」ができています。6年生の姿も落ち着いている。今日が特別ではなく、普

段も。学習規律ができていますのは指導のたまもの。型はできています。今後は深めることへ。突っ込んで引き出すことも。思考・対話の力のアップが今後の課題。

○1年の道徳学習－「かくす」にした子1人…素直な心を出せる環境下である。

○1年生－どちらの学級もよい。ネームプレートをはるときの姿。「並びましよう」で整列し

た。学習規律ができています。

3. Q－U調査の結果（6月と11月の比較）

「学級生活満足群」6月 64%→11月◎80%、「非承認群」6月 27%→11月 ◎13%

「侵害行為認知群」6月 3%→11月○ 1%、「学級生活不満足群」6月 4%→11月 5%

「要支援群」6月 2%→11月○ 1%

4. いじめ問題及び問題行動の認知について

・いじめ事案を含む問題行動（年間約30件）

◎ 評価について

◇ 鳥取市共通項目アンケートからは、前年に比べ、高い数値を示しているが、鳥取市の平均との比較で落ち込んでいる、あるいは、12月との比較において下降している項目がある。アセスメント

を確実にを行い、更に向上するように取組を工夫する必要がある。

◇ 地域創造学校運営各委員の発言からは、各学級の学習規律が整い、落ち着いた中で児童が学習に

集中し、意欲的に自己表現する姿や指導者が児童とつながり、認めながら指導していることがわか

る。児童が安心して自己発揮できる環境が、人権教育の全体計画のもとに全教職員が課題解決に向

けた取組を日常的に行った成果として生み出されたと考える。

◇Q－U調査からは、「学級生活満足群」や「非承認群」について良好な結果を示し

ているが、その

枠に入らない個々の児童の割合は依然多い。

◇いじめ事案が複数あり、現在も指導支援を継続し見守っている。また、障がいや異文化に対する理

解不足による不適切な発言による友達同士のトラブルもあり指導を行ってきた。呼び捨てや暴言・

嫌がらせ・からかい等をする児童が多く、相手を尊重する言葉づかいや態度の育成が必要である。こ

れらの背景には、自分に自信がない、自己肯定感や自己有用感が低い、友達間の結びつきが弱い等

があると考えている。

(2) 実施計画

時 期	内 容	備 考
4月16日 5月7日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 第1回研究推進会議開催 (研究推進計画について協議・検討)	参加者1人 参加者7人
5月11日 5月27日	第1回地域創造学校運営協議会で説明 教育実践研究家「菊池省三」氏の示範授業及びPTA研修会(講演会)、職員研修 ※アドバイザー派遣事業兼ねる ・示範授業(2年、4年、5年) ・PTA研修会(講演会)「演題『対話でつながる家庭へ』」 ・職員研修(講義)「『主体的・対話的で深い学び』への授業改善」	参加者11人 参観日も兼ねる のべ200人参加
6月6日	鳥取県教育委員会人権教育課 松井貴宏 指導主事 鳥取県教育委員会東部教育局 平野靖博 指導主事 角田 亘 指導主事	
6月20日	鳥取市教育委員会学校教育課 福田 美奈 主幹 職員研修 ・Q-U調査の結果と分析、対策について 全体研究会の実施 3年2組-道徳 教材名「あと、ひと言」 ・指導助言 鳥取県教育委員会東部教育局 角田 亘 指導主事	
7月12日 7月27日	講義「規範意識を高め、自他のよさを認め合いながら協働できる子の育成」	
8月1日	鳥取県教育委員会人権教育課 松井 貴宏 指導主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田 美奈 主幹 低学年部会の実施 つばさ2組-道徳 教材名「めだかのめぐり」	参加者50人
8月17日 8月22日	中学校区全教職員研修会(国府中) ・講義 鹿野学園義務教育学校 村尾 行也 校長	
8月29日	「特別の教科 道徳の理論と実践」 研究推進委員会	東部教育局にて
9月19日	・授業研究会、指導案について 職員研修 道徳の評価について	研究主任 道徳主任
10月17日 10月19日	指導助言 鳥取県教育委員会東部教育局 角田 亘 指導主事	参加者2人
10月31日	「特別の教科 道徳の評価について」	

11月4日	職員研修 道徳の評価について ・8/22の指導助言を受けて共有・本校のスタイルの確立	
11月8日	中学年部会の実施 コスモス学級—道徳 教材名「お母さんの請求書」低学年部会の実施 2年1組—道徳 教材名「まいごのすず」	
11月21日	低学年部会の実施 1年2組—道徳 教材名「うんどうぐつ」	参加者50人 ※初任者研修 研究授業を兼ねる。参加者40人
11月28日	中学年部会の実施 4年1組—道徳 教材名「いのりの手」 高学年部会の実施 6年2組—道徳 教材名「ロレンゾの友達」 低学年部会の実施 1年1組—道徳 教材名「みっちゃんのやくそく」	
12月12日	「親子映画祭」開催…国府町コミュニティセンター 中学年部会の実施 3年1組—道徳 教材名「あらそい」 高学年部会の実施 5年2組—道徳 教材名「銀のしょく台」	参加者50人
12月19日	高学年部会の実施 つばさ1組—道徳 教材名「美徳を守る人」 低学年部会の実施 2年2組—道徳 教材名「おらもいしゃになる」	
1月下旬	研究授業の公開 「平成30年度人権教育研究指定校事業に係る授業研究会兼第3回国府中学校区全教職員研修会」 ・授業公開 4年2組—道徳 教材名「レスリングの女王 吉田沙保里」 5年1組—道徳 教材名「太平洋のかけ橋 新渡戸稲造」	20冊 配布先→ ・市教委3、 ・地域創造学校運営協議会委員11 ・中学校区2 参加者1人
2月14日	・分科会別授業研究会 ・指導助言 鳥取県教育委員会人権教育課 松井貴宏 指導主事 鳥取県教育委員会東部教育局 角田 亘 指導主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田美奈 主幹 高学年部会の実施 6年1組—道徳 教材名「行為の意味」	
	職員研修 ・Q-Uの結果と分析 研究報告の印刷・配付	
	人権教育研究推進事業報告会 第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	